

なお、東アジア各国が共同で調査を実施するに当たって、一定水準の測定データの質を確保する必要があり、酸性雨の採取、保存、分析方法の統一等、技術的問題を解決しなければなりません。測定結果の精度、正確度、その地域を代表した測定値もしくは測定地点であるかなど精度管理が重要となります。十分な精度管理のもとでネットワークが運営されることによって、酸性雨問題に関する確かな情報が得られます。

(大気室)

国際交流

JICA衛生・環境分析技術者コースについて

国際化の進展が世界の潮流になっている中で国際化への対応は国レベルだけでなく、地域においても重要かつ大きな社会現象となっています。このような状況の中で、それぞれの地域においてもボーダーレス化、グローバル化を睨みながら、国際協力への積極的な取り組みが求められているところであります。

沖縄県は外務省、国際協力事業団の三者での協議により昭和58年沖縄県衛生環境研究所にJICA研修コースを開設することになりました。本コースは研修内容が広範なため当初は公衆衛生技術者コースと銘打って5つのサブコース（環境汚染、



平成11年度 研修員

食品衛生、伝染病対策、衛生動物、毒蛇対策)を設けて研修を行っていましたが、時代の変遷と共にサブコースの内容も若干

の変動を余儀なくされ平成10年度から衛生・環境分析技術者コースに改め「感染症」「衛生動物」「食品化学」「大気汚染」「水質汚濁」「蛇毒素」「抗毒素」の7つに分科されました。

昭和58年度の第1回にタイ、シンガポール、インドネシア、フィリピンの4カ国から5人の研修員を受け入れてから、平成11年度第17回まで

に28カ国91人のJICA研修員を受け入れてきました。

当研究所で分析技術を修得したJICA研修員は自国に帰り中堅職員として同僚を指導しながら、沖縄の実状と文化について多少の潤色を加えながら得意気に語っていることでありましょう。

(研修指導室)

お知らせ

衛生環境研究所公開研究発表会

『集談会』と呼ばれる所内研究発表会は、昭和46(1971)年10月の第1回に始まり、この度第100回目を迎えることになりました。当初は年1回程度の開催でありましたが、現在では年4回開催し、そのうちの1回を所外の方々にもご出席をいただいております。

今回は、『集談会』の100回を記念して、当研究所を特徴づける調査研究の成果を広く県民の皆様にご報告・紹介したいと思います。

この100回記念研究発表会を契機としまして、当研究所についてより一層のご理解をいただき、今後の調査研究について県民の皆様のご支援・協力をお願いしたいと思います。

■開催日時・場所

平成11年9月10日(金) 13:30~16:30

県庁4F講堂

■演 題

- | | |
|--------------------------------|---------|
| ① 沖縄県の感染症発生状況 | (疫学情報室) |
| ② 沖縄県における腸管出血性大腸菌の発生状況とその疫学的特徴 | (微生物室) |
| ③ ハブクラゲ刺症と対策 | (衛生動物室) |
| ④ 沖縄県のハブ抗毒素研究の歩み | (ハブ研究室) |
| ⑤ 沖縄県におけるシガテラ毒魚調査 | (保健化学室) |
| ⑥ 酸性・酸化物からみた沖縄の大気環境 | (大気室) |
| ⑦ 沖縄県における環境中の化学物質について | (水質室) |
| ⑧ 赤土堆積がサンゴに及ぼす影響 | (赤土研究室) |

■資 料

調査研究から見た50年の歩み (研修指導室)

※衛生研ニュースではみなさまのご意見、ご質問をお待ちしています。

E-mail:xx032018@pref.okinawa.jp

ホームページ: <http://www.pref.okinawa.jp/98/ekarken/Default.htm>

発行 沖縄県衛生環境研究所
〒901-1202 大里村字大里2085
TEL(098)945-0783・0781
FAX(098)945-9366